

琉球生命済生会琉生病院の病床種別及び機能変更について

1. 病床種別、病床機能変更案（総病床数に増減はなし）

【現 状】

病床種別	病床機能	病床数	備考
一般病床	一般病棟（急性期）	35床	
療養病床	療養病棟入院料1（慢性期）	53床	
合計		88床	

【変更後】

病床種別	病床機能	病床数	備考
療養病床	<u>地域包括ケア病床（回復期）</u>	<u>12床</u>	<u>変更あり</u>
	<u>療養病棟入院料1（慢性期）</u>	<u>22床</u>	
療養病床	<u>療養病棟入院料1（慢性期）</u>	<u>54床</u>	<u>変更あり</u>
合計		88床	変更なし

2. 病床種別、機能変更理由

(1) 現状、課題

- ① 当院は急性期一般病床の対象となる患者は少数であり、長期入院となる療養病床の患者が主体である。
- ② 高度急性期病院からの紹介患者は、ほとんどが療養目的である。
- ③ 今後、機能分化、地域連携が必要な事を考え、当院が地域に求められる病床は急性期ではなく地域包括ケア病床、療養病床であると考える。

(2) 対応

- ① 理学療法士（2名）を採用し、疾患別リハ（脳血管疾患リハ、運動器リハ等）の届け出を行い、入院患者様のケアを充実し在宅復帰に向けた取り組みを強化する。
- ② 南部地区病院（高度急性期病院7対1）からの受け皿となるポストアキュート、在宅からのサブアキュートの入院機能を持つ地域包括ケア病床を開設し、高度急性期病院や在宅医療施設との連携を充実させ、回復期、慢性期の病院として地域の一翼を担っていきたい。
- ③ 高度急性期病床（他院） → 回復期病床（受け入れ） → 在宅復帰の流れを構築
 高度急性期病床（他院） → 療養病床（受け入れ）
 在宅医療（自院、他院） → 回復期病床（受け入れ） → 在宅復帰の流れを構築
 以上の体制を構築し、地域包括ケアシステムの一翼を担う。

※ 2018年7月：在宅支援病院の届け出を行い受理。

※ 2019年度：急性期一般病床35床を地域包括ケア病床（12床）療養病床（22床）へ変更。